

総合  
テーマ

# 北海道の農林水産業のいま

**北** 北海道における1次産業が経済に与える影響は、他地域に比べて大きく、1次産業の衰退は北海道経済の衰退につながる大きな問題です。一方で、グローバル経済のもとでは自由貿易が重要視され、TPPやEPAなどに積極的に参加しようという動きもあり、これらが日本の1次産業に与える影響は大きいと思われます。また、国内に目を向ければ離農や後継者不足といった人的資源の問題、北海道に限っては経済的な価値があるものを生産、販売するといった点についての問題などもあります。

これらを解決する方法として、よく耳にするのが、農産物のブランド化、6次産業化、海外への輸出、営農方法の改善などがあげられます。今回の経済学特別講義では、農業、林業、漁業の現状を知るとともに、この厳しい環境の中での取り組みや今後の展望について、1次産業にかかわる生産者、加工業者、流通業者の方々を講師に招いてご講演いただき、今後の1次産業のあり方を考えて行きたいと思えます。

受講料無料／事前申込不要 受講ご希望の方は、当日直接会場までお越しください。

## 第1回 この講義のねらい

9月27日金

平澤 亨輔 ●札幌学院大学経済学部 教授

## 第2回 北海道農業の現状と新たな可能性

10月4日金

竹林 孝 ●公益財団法人北海道農業公社 理事長

## 第3回 スマート農業の現状と今後の展望

10月11日金

野口 伸 ●北海道大学大学院農学研究院 副研究院長・教授

## 第4回 JAびえいの取組みと四季彩の丘の挑戦

10月18日金

熊谷 留夫 ●JAびえい(美瑛町農業協同組合) 代表理事組合長

## 第5回 フード特区機構の取組 ～一次産業と企業の連携促進など～

10月25日金

向平 浩二 ●一般社団法人北海道食産業総合振興機構 事務局長

## 第6回 北海道のワインづくり

11月1日金

滝沢 信夫 ●TAKIZAWA ワイナリー 代表

## 第7回 地域との共存共栄を目指す浜中町農協の取組み

11月8日金

石橋 榮紀 ●JA浜中町(浜中町農業協同組合) 代表理事会長

## 第8回 Farm to Table ～地域の資源を活かす取組み～

11月15日金

佐々木威知 ●株式会社セコマ 広報部部长

## 第9回 北海道の小麦 地場製粉の取組み

11月22日金

中澤 佳伸 ●木田製粉株式会社 業務部部长

## 第10回 道産水産物流通動向と展望

11月29日金

伊藤 貴彦 ●北海道漁業協同組合連合会 代表理事常務

## 第11回 組合員と歩む漁協運営

12月6日金

山本 国男 ●野付漁業協同組合 専務理事

## 第12回 北海道林業の課題と可能性

12月13日金

柿澤 宏昭 ●北海道大学大学院農学研究院 教授

## 第13回 本道森林資源の推移と製材工業の変遷

12月20日金

齋藤 光久 ●株式会社斉藤工業所 専務取締役

## 第14回 北海道酒造好適米の現状と今後の取組み

1月10日金

白髪 良一 ●日本清酒株式会社 取締役相談役

※講師敬称略

会場／札幌学院大学D202教室  
(江別市文京台11番地 D館2階)

講義時間／13:10～14:40

コーディネーター／湯川 郁子(札幌学院大学経済学部 准教授)  
主催／札幌学院大学経済学部、えべつ市民カレッジ、道民カレッジ連携講座

●お問い合わせ先

札幌学院大学教育支援課(経済学部担当)

〒069-8555 江別市文京台11番地

☎011-386-8111

[URL]http://www.sgu.ac.jp

2019  
(令和元年度)

# 札幌学院大学経済学部 公開講座 経済学特別講義C 講師紹介

第1回(9月27日) 平澤 亨輔 ●札幌学院大学経済学部 教授

## この講義のねらい

長野県出身。北海道大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学修士。1984年札幌学院大学商学部助教授。1999年札幌学院大学経済学部教授。現在に至る。専門は都市経済論。

第2回(10月4日) 竹林 孝 ●公益財団法人北海道農業公社 理事長

## 北海道農業の現状と新たな可能性

空知管内北竜町出身。1978年北海道大学農学部卒業。同年、北海道入庁。道庁では主に農政畑を歩み、農政企画、酪農畜産、食品安全対策などを担当した後、十勝支庁長、総合政策部地域振興監、経済部食産業振興監を経て、2013年農政部長(2015年退任)。2015年一般社団法人北海道地域農業研究所特別顧問。2016年から公益財団法人北海道農業公社理事長。

第3回(10月11日) 野口 伸 ●北海道大学大学院農学研究院 副研究院長・教授

## スマート農業の現状と今後の展望

1990年北海道大学大学院博士課程修了。農学博士。同年北海道大学農学部助手。1997年助教授、2004年より教授。現在、農学研究院副研究院長・教授、本年3月まで内閣府SIP「次世代農林水産業創造技術」プログラムディレクターを務める。その他、日本学術会議連携会員、日本生物環境工学会理事長、日本農業工学会副会長。専門は生物環境情報学、農業ロボット工学。スマート農業に関する研究に従事。

第4回(10月18日) 熊谷 留夫 ●JAびえい(美瑛町農業協同組合) 代表理事組合長

## JAびえいの取組みと四季彩の丘の挑戦

昭和46年就農。平成3年6月美瑛町農業協同組合理事。平成23年4月美瑛町農業協同組合専務理事。平成27年4月美瑛町農業協同組合代表理事組合長。昭和61年～平成2年スノーモービル全日本チャンピオン4回。

第5回(10月25日) 向平 浩二 ●一般社団法人北海道食産業総合振興機構 事務局長

## フード特区機構の取組 ～一次産業と企業の連携促進など～

札幌市出身。1988年、北海道に入庁。入庁以来、金融、エネルギー、職業訓練、観光、食関連などの経済行政に携わり、2019年6月、一般社団法人北海道食産業総合振興機構(通称フード特区機構)の事務局長に就任。

第6回(11月1日) 滝沢 信夫 ●TAKIZAWA ワイナリー 代表役

## 北海道のワインづくり

1945年、北海道中標津町生まれ、73歳。1968年、多摩美術大学グラフィックデザイン科卒。1971年、札幌にてコーヒー専門店「可否茶館」創業。2006年、三笠市達布地区にワイン用ブドウ栽培を始める。2013年、「TAKIZAWAワイナリー」設立、現在に至る。

第7回(11月8日) 石橋 榮紀 ●JA浜中町(浜中町農業協同組合) 代表理事会長

## 地域との共存共栄を目指す浜中町農協の取組み

千葉工業大学卒業後、浜中町で実家の酪農従事。1990年JA浜中町組合長就任。2017年同代表理事会長。その間、全国初となる各事業を手掛ける。営農データ可視化のために、酪農技術センターを設立。成分無調整4.0牛乳開始。新規就農者育成のための牧場開設。農協出資異業種連携の酪酪農王国設置。メガソーラー発電システム開設。JA管内で生産される生乳は、ハーゲンダッツアイスクリームの原料となっている。

第8回(11月15日) 佐々木威知 ●株式会社セコマ 広報部部長

## Farm to Table ～地域の資源を活かす取組み～

平成9年株式会社セイコマート入社、平成15年運営部課長(スーパーバイザー)、平成18年総務部総務人事課課長、平成22年企画広報室室長、平成22年マーケティング企画部部長、平成31年4月株式会社セコマ広報部部長(現職)。平成24年小樽商科大学大学院卒業(経営管理修士)。

第9回(11月22日) 中澤 佳伸 ●木田製粉株式会社 業務部部長

## 北海道の小麦 地場製粉の取組み

1970年札幌市出身、空知出身。1989年3月北海道立岩見沢東高等学校卒業。1993年3月国立大学法人帯広畜産大学畜産学部農産化学科卒業。1995年3月帯広畜産大学大学院畜産学研究科農産化学専攻修了。1995年4月木田製粉株式会社入社。1996年同品質管理保証室。2008年同品質管理保証室/業務部(兼任)。2015年同営業部。2018年同品質管理保証室/業務部(兼任)。現在に至る。

第10回(11月29日) 伊藤 貴彦 ●北海道漁業協同組合連合会 代表理事常務

## 道産水産物流通動向と展望

昭和62年3月北海道大学水産学部漁業学科卒。昭和62年4月北海道漁業協同組合連合会入会。平成22年7月大阪支店長。平成24年4月管理部長。平成26年4月総務企画部長。平成28年7月参事。令和元年6月代表理事常務。

第11回(12月6日) 山本 国男 ●野付漁業協同組合 専務理事

## 組合員と歩む漁協運営

昭和31年8月11日生(63歳)。昭和56年4月より野付漁協に勤務。販売課販売係、指導部資源管理係、総務部、信用部。平成22年11月より参事。平成27年3月にて職員を退職。平成27年3月より専務理事にて現在に至る。

第12回(12月13日) 柿澤 宏昭 ●北海道大学大学院農学研究院 教授

## 北海道林業の課題と可能性

北海道大学大学院農学研究科修士課程修了、博士(農学)。北海道大学農学部助手・助教授、ワシントン大学森林資源学部客員研究員などを経て現職。生態系保全を基礎とした自然資源・森林管理を支える社会・制度や、地域と森林の再生のあり方について研究。主たる著書として「日本の森林管理政策の展開」、「エコシステムマネジメント」(単著)、「生物多様性保全と環境政策」、「保持林業」(編著)など。現在、北海道水資源保全審議会会長、コブさっぽろ未来の森づくり基金運営委員長なども務めています。

第13回(12月20日) 齋藤 光久 ●株式会社斉藤工業所 専務取締役

## 本道森林資源の推移と製材工業の変遷

1958年旭川生まれ。1978年(株)斉藤工業所入社、専務取締役。(一社)北海道林産技術普及協会副会長。旭川地方木材協会副会長。北海道木材産業協同組合連合会「エゾマツ・トドマツ対策委員会」委員長。トドマツの活用に取り組み企業連携体である「上川地域水産連携協議会」会長。足かけ10年、「木材に関するお客様のSOSを解決します」をキーワードにブログ(<http://saitozaimoku.blog112.fc2.com/>)を綴っている。

第14回(1月10日) 白髪 良一 ●日本清酒株式会社 取締役相談役

## 北海道酒造好適米の現状と今後の取組み

昭和38年法政大学経済学部卒業。同年北海道拓殖銀行入行。野球部監督を務めながら、新さっぽろ支店長、北見支店長、小樽支店長、検査部部長、企画部理事を歴任。平成6年エイベックス(現ウインザーホテル洞爺)出向総支配人。平成9年日本清酒株式会社入社。平成11年代表取締役社長。平成17年高砂酒造株式会社、株式会社千歳鶴商會代表取締役社長(兼任)。平成24年日本清酒株式会社代表取締役会長、平成29年取締役相談役(現職)。

受講料は無料で、どなたでも受講できます。人数に制限はありません。事前申込は必要ありませんので、当日直接会場にお越しください。



# 札幌学院大学